



わかむぎ

No.11 令和6年2月20日 発行/古屋 正樹



久しぶりの雪
厄介者と感じるか
風情と感じるか
自分の心が決めます

春間近 ～有終の美に向けて～

立春の翌日、午前中より降り出した雪は一向に止まず、下校する生徒の足元を白い絨毯が覆いました。夕方には「大雪注意報」から「大雪警報」に変わり、平成26年の豪雪を知る身としては夜間の積雪が心配となりました。幸い、翌朝には雪も上がり、甲府盆地での積雪は10cmほどで大きな被害や影響が出なかったことに安堵しました。そうは言っても、翌朝の雪道は歩きにくく、雪国でない我々にとっては難儀な1日となりました。自然の力を前にした人間の小ささを、改めて痛感しました。

近年は、1月の降雪はめっきり減り、2月に入ってから降雪が多いように感じます。実際に10年前(平成26年)の豪雪は2月14日、1年前の2月10日にも盆地に10数cmの積雪、その間も何度か2月に降雪がありました。気候変動が叫ばれて久しい昨今、今では2月の降雪は当たり前になりつつあるのかもしれませんが。

さて、あれから2週間が過ぎ、少しずつ春の気配が感じられるようになりました。先週から今週にかけては、日の最高気温が15℃を上回る暖かい日が続きました。また、甲府市にある梅園では、今月上旬に梅が開花し始め、季節は確実に春に近づいています。この時季によく耳にする言葉として「三寒四温」があります。「寒い日が三日間ほど続くと、

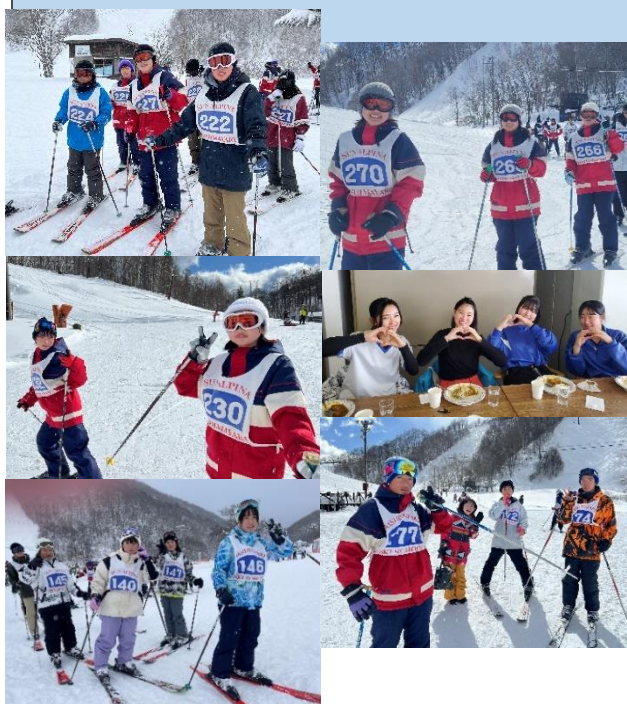
その後、四日間ほど暖かい日が続く」ことを意味し、気候がだんだんと暖くなるこの時季を表しています。

いよいよ春を迎えるこの時季、学校では、1年間の総まとめを迎えます。そして、3年生は卒業と進路、1・2年生は進級。誰もが1年の中でも大きな節目を迎えます。一人ひとりの心の中にはいろいろな思いが交錯すると思いますが、いい締めくくりを迎えたいものです。「有終の美（物事を最後まで立派にやり遂げて成果を上げること）」を胸にラストスパート！！

2年生～スキー教室～

昨年度は日帰りだったスキー教室ですが、今年度から以前の形に戻し、1泊2日で実施することができました。

鹿島槍スキー場のゲレンデでは「七転八起（スキー教室テーマ）」、楽しく充実した2日間を送ることができました。普段学校ではできない経験を、また、教室では見ることのできない仲間の姿を、肌で感じることができた2日間でした。



3年生～こども園訪問～

家庭科の保育学習の一環で、今年度も「押原こども園」の協力のもと、ふれあい体験学習を実施しています。中学生が直接園児と触れ合うことで、乳幼児への理解や肯定的な感情、自分自身の振り返りなど、いろいろな面で考える機会となっています。生徒のふれあう姿から、普段の学校生活とは違うステキな表情を見ることができました。（↓写真は5組の様子）



*画像は一部修正あり

1年生～6年生を迎えて～

2月2日、6年生とその保護者を対象にした新入生説明会が行われました。その中で、1年生は合唱曲「空駆ける天馬」を披露しました。1年前は同じ立場だった1年生も、今ではたくましさを増し、先輩としての姿を立派に示してくれました。6年生からは「合唱が上手だった」と感想が聞かれ、6年生にとっても1年後のイメージが持てたのではないのでしょうか。新2年生には、4月からたくさんのアドバイスを期待しています。

